

千秀だより

横浜市立千秀小学校

9月号

平成29年(2017)8月28日



夏休みに出逢ったすてきな姿～社会で学んだ力を生かして

校長 市川 幸男

38日間に及ぶ長い夏休みが終わり、子どもたちが元気に学校に戻って参りました。今年の夏は、夏休みに入った当初の7月こそ夏らしい気候でしたが、8月に入ったとたんに曇り空や雨模様が続き、夏らしさを感じる事がなく、冷夏と言っても過言ではないような状況でした。過ごしやすいいれば良いのですが、北陸・東北地方では稲をはじめとして作物の生育に支障が出るといった報道もされています。そんな38日間を子どもたちはどう過ごしてきたのでしょうか。

幸いなことに、幾度か夏休み中に子どもたちが社会の中で活躍する姿に出会う機会に恵まれました。例えば長尾台や田谷の盆踊り。地域の行事ということで、多くの子どもたちが、普段、学校では見られない自然な姿で行事を楽しんでいる姿を見せてくれました。会場に行くと、多くの子どもたちが「こんにちは。」「こんばんは。」をはじめとして「校長先生。久しぶりですね。元気にしていますか。」と気遣ってくれる子もいます。千秀の子どもたちの素直で伸びやかな姿が見られ、本当に幸せな気持ちになりました。そんな会場の中を回っていると、子ども会や町内会の役員さんの子どもなののでしょうか、焼き鳥やカレーライスの店のお手伝いをしている子に出逢いました。他の子どもたちのように、遊びに回りたいという思いも持っているのですが、そこは押さえ、しっかりと店番をし、「おいしいよ」と呼びかけたり、おつりを間違えないように一生懸命計算したりしている姿も見られました。時々、後ろに控える保護者の顔を振り返り見て、お母さんの大丈夫だよとわずく姿に励まされている姿は、実にほほえましい姿でした。また、目を櫓に向けると、そこには、本校の卒業生の指導のもと、懸命に太鼓をたたく児童の姿も見られました。他にも、キッズクラブで低学年の子と一緒に遊んで、その中で面倒をしっかりと見てくれる姿も、幾度となく校長室から目にする事ができました。チーフに聞くと、遊びの時間だけでなく、宿題をする勉強時間にもミニ先生となって、教えてくれているそうです。こういった交流や経験の積み重ねが、学校をはじめとして地域社会を愛し、大切にしていける姿につながっていくのだなあと、実感した次第です。

平成32年度に完全実施となる次期指導要領では、これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り開いていくために求められる資質・能力の育成が求められております。また、学校は社会や世界の状況を広く視野に入れ、より良い学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介して、その目標を社会と共有していくことが大切であるとされています。この夏、地域の盆踊りやその他の行事の中で見た、社会の中で生き、活躍する子どもたちの姿。キッズで見た互いにいたわり合う姿。そしてそういった活躍の場を提供してくださっている周囲の大人たちの姿に、心から感謝することの多かった夏休みでした。千秀の子どもたちは自分では意識しないでも、この夏休み中にとびきりの宝物を手にした子が多かったのではないかなと思います。社会＝身近な地域から愛されていることを経験した子どもたちは、地域を愛し大切にしていける大人へと成長していきます。

さて、これから始まる9月には、4・5年生の宿泊体験学習や6年生の修学旅行など、多くの行事が目白押しの月です。同時に学期のまとめの時期でもあります。4月からの学びにこの夏休みでの学びを加え、その力をしっかり活用してより有意義に学校生活を進めて行かれるようにして参ります。今後も学校へのご支援ご協力よろしくお願い致します。